

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	平成27年7月30日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府長岡京市開田1丁目1番1号	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 長岡京市長 中小路 健吾

環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2004(JIS Q 14001:2004)
適用範囲	長岡京市役所及び浄水場
導入年月日	2002年 2月 27日
認証番号	EC01J0315
基本方針	<p>長岡京市は、基本理念にのっとり、ISO14001規格に適合する環境マネジメントシステムを構築し、運用するとともに、継続的改善に努めます。</p> <p>1. 長岡京市が公共の福祉のために行う活動(市役所庁舎及び浄水場)について環境への影響を把握し、環境に著しい影響を及ぼすと認められる項目について、環境目的及び目標を定め、実行します。また、常に点検し定期的な見直しにより環境への有益性の向上と負荷低減に努めていきます。</p> <p>2. 環境関連法令及び本市が同意するその他の協定事項を遵守するとともに、汚染の予防に努めます。</p> <p>3. 環境マネジメントシステムの組織と運営体制を整備し、責任の所在を明確にします。</p> <p>4. 環境方針を、全職員をはじめ、市役所で働きあるいは市の事業のために働くすべての人が認識し、方針に沿った活動を持続的に実践できるよう研修を実施します。</p> <p>5. この環境方針に基づく活動結果は、長岡京市役所内外に公表します。</p>
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	<p>【全体で取り組む目的・目標5項目】</p> <p>1. コピー用紙使用量の削減・・・H27年度までにH24年度の使用量より3万枚削減する</p> <p>2. 水道水使用量の削減・・・H27年度までに11,800m³以内にする</p> <p>3. 一般廃棄物排出量の削減・・・H27年度までに3,470袋以内にする</p> <p>4. グリーン購入率の向上・・・H27年度までに97%以上にする</p> <p>5. 温室効果ガス排出量の削減・・・H27年度までに3年間平均でH24年度の排出量より5%削減する</p>
目標を達成するための取組の内容	<p>1. コピー用紙使用量の削減・・・会議資料の簡素化・削減及び共有化、職員周知文書の電子化、両面及び複数ページ印刷の推進、裏紙利用の推進、会議資料等の修正訂正の改善、インフォメーションを利用した紙減量の啓発</p> <p>2. 水道水使用量の削減・・・節水、雨水の利用、機器の更新・新設時には節水型の購入に努める</p> <p>3. 一般廃棄物排出量の削減・・・分別排出の徹底、ごみ排出量の削減に努める</p> <p>4. グリーン購入率の向上・・・グリーン商品の購入促進</p> <p>5. 温室効果ガス排出量の削減・・・「長岡京市役所地球温暖化防止実行計画」に掲げる取り組みの実施</p>
目標を達成するための取組の進捗状況	<p>1. コピー用紙使用量の削減・・・会議資料の簡素化・削減及び共有化、職員周知文書の電子化、両面及び複数ページ印刷の推進、裏紙利用の推進、会議資料等の修正訂正の改善、インフォメーションを利用した紙減量の啓発を継続して実施中。</p> <p>2. 水道水使用量の削減・・・節水、雨水の利用を継続して実施中。</p> <p>3. 一般廃棄物排出量の削減・・・分別排出の徹底、ごみ排出量の削減を継続して実施中。</p> <p>4. グリーン購入率の向上・・・グリーン商品の購入を継続して実施中。</p> <p>5. 温室効果ガス排出量の削減・・・「長岡京市役所地球温暖化防止実行計画」に掲げる取り組みを継続して実施中。グリーンカーテンは、夏季に実施済み。次年度の省エネについては、調整中。</p>
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<p>概ね計画通りに取組みは進められ、水道水使用量の削減、グリーン購入率の向上については達成することが出来た。しかし、コピー用紙使用量の削減、一般廃棄物排出量の削減、温室効果ガス排出量の削減は達成することが出来なかったため、取組みの強化が必要である。温室効果ガス排出量については、電気・ガスの実質的な使用量が削減できているにもかかわらず、排出係数の影響により厳しい結果となったため、今後は排出量による比較とともに、使用量についても注視しながら引き続き削減に努めていきたい。</p>
事業活動に係る法令の遵守の状況	<p>関連法規の遵守状況について3ヶ月に1回監視・測定を行っている。監視・測定の結果、各マニフェスト及び現地確認等の実施により、法基準の遵守状況は良好な結果である。</p>
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	<p>評価については3ヶ月に1回、見直しは年に1回行っている。</p> <p>電気使用量については、目標基準年度である平成24年度と比較して削減されたが、排出係数の上昇により、温室効果ガス排出量については目標が達成できなかった。</p> <p>排出係数を用いて換算する前の使用量と比較することで、日常業務において職員一人一人が取り組んだ節電効果が「見える化(可視化)」できると考えられるため、今後は、従来の「温室効果ガスの排出量」という指標とともに、「電気使用量」についても参考指標として報告することとする。</p>

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。